

平成22年度 第3回安曇野市消防委員会 会議概要

- 1 審議会名 安曇野市消防委員会
- 2 日 時 平成22年12月15日 午後6時00分から午後7時30分まで
- 3 会 場 豊科総合支所 コミュニティ消防センター
- 4 出 席 者 丸山重隆委員長、笠井郁男委員、中野博夫委員、横内好幸委員、宮澤一雄委員、
小林光男委員、島山忠幸委員、猿田 正委員、丸山 胖委員、鈴木清富委員、
豊島 実委員、小出博一郎委員
- 5 市側出席者 危機管理室長、消防防災担当係長、下里主査、西牧主査
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成22年12月27日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
- 1 開 会
 - 2 委員長あいさつ
 - 3 会議事項
 - (1) 消防団車輛の配備計画（案）について
 - (2) 年末警戒巡視激励につて
 - (3) 平成23年出初式について
 - (4) その他
 - 4 閉会
- 2 審議概要
- (1) 消防団車輛の配備計画（案）について
- 係長より、消防車輛配備における地域的特長等を考慮すべき要因として考えられる事項を説明。
- 各委員より（地域ごと）意見・発言
- 笠井委員：（豊科）現役分団長からは現状維持でいいという意見。消防団員が減少していく中で、ポンプ車は操作の取り扱いができないということのようで、豊科は全部可搬で良いということだった。
- 横内委員：（明科）前回の委員会で軽自動車という話が出たが、その辺も考えているのか？
- 係 長：その必要性も認識しています。
- 横内委員：明科は山を抱えていて、軽可搬の仕様もいいのではということで、明科地区の区長とも相談していきたい。
- 宮澤委員：（明科）軽の話が出たが、山間地の情報収集には軽ぐらいがいいんじゃないか。可搬ポンプがついていなくても、うしろに消防団員が乗って情報収集をするという意味では、軽自動車の方を早く検討してもらいたい。
- 島山委員：（穂高）市街地と山林に分かれているが、操法大会、ホース展長訓練等も盛んにやっているの
で、現状維持が基本のなか、ポンプ車はどうしても必要という意見。
- 猿田委員：（堀金）可搬が3台入ることが決まっているので、これからポンプ車がなくて可搬だけでやって
いただくように、分団に伝えていきたいと思う。
- 丸山委員長：丸山前団長の時から可搬という話が出ていたので、ポンプ操法大会のために、できたら年内（平
成22年）でもほしいと言っていた。
- 鈴木委員：（三郷）可搬でもOKだが、1台はポンプ車が必要である。また小倉地区は山を登るのに四駆の
積載車がいい。
- 小出委員：用水路が工事のために水が無いという期間が長く発生すると、それをカバーする消火栓設備がど
うなのか、という心配があります。車輛装備については軽可搬という話がでていますが、市の財

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してくだ
さい。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

政の問題だとか機能性とか将来的に変わっていかねばいけないと思っています。また機能別消防団員の事も考えていかねばいけないと思っていて、本格的なポンプ車、可搬積載車、もっと小回りの効く軽自動車を相対的に考えていく必要があると思います。

丸山委員長：梓川左岸の水利のほうは、冬場水田に水が必要なくなると工事をおこなうということで完全にストップしてしまう。そういうことから、消火栓の整備も考えていかねばと団長さんの意見から思いました。

係長：車輛以外のことで、地域の考えられるべき要因で何かお話をいただければ。

小出委員：水防施設のことも配置と一緒に考えていかねばいけないと思っています。各地域の考慮すべき要因がいろいろあるわけだが、各地域に自主防災組織も立ち上がっていて、孤立した時に、そこにいる人で動けるような状態を作れるようにしていかなければと思います。

小林委員：私の地元の安曇野市の三川合流地点。この地域は過去歴史的からみても台風等からくる災害が起きている。消防といえば火事ですけど、これからの災害といえば水ということもあるので、消防自動車の配備も水防の事を考えていかねばいけないと思う。

宮澤委員：これからは水防倉庫の充実を図っていただきたい。

笠井委員：お聞きしたいが、地域でポンプ車の無いところが出てくるのか？

室長：合併するまでは、それぞれ地域の考え方で持って、可搬・ポンプ車の配備整備をしてきたが、安曇野市になると、そういったそれぞれの地域の考え方をいったんゼロにして、ポンプ車は20年、可搬は15年という目安で更新をしていけばということで、そうしたなか、ポンプ車はどう配備したらよいかということそれぞれの考慮すべき要因を踏まえながら、将来的にどう配備したらよいかを委員の皆さんからご意見をお聞きし、この地域ではこうだということ次回に示していければと思っています。

小林委員：最終的には、ポンプ車を何台にするかということ。基本は可搬と決まっているし将来的においても可搬でもいいと思っているが、今の消防団の気持ちからすると、ポンプ操法大会をやっている、ポンプ車から可搬に移行することも考えて、急激に変えるのではなく、何年後は可搬にという方向付けで変えていくのが筋ではないかと思っている。

室長：更新時期のグラフを見ていただくと、平成30年にはいっきに15台更新がくるわけです。そういったなかで更新の平準化にもっていかないと、また次の20年後には同じ様なことが起きるので、これをいかに平準化して更新をさせていくか大事なところです。

小林委員：そうすると、安曇野市全体を考えていかねばいけない。

室長：基本は可搬ですが、いろいろな地域の要因を考慮しながら配備していきましょうということです。

係長：配備計画のなかで、平成23年度の予算で市内の昭和56年以前の建築基準法改正前の詰所の耐震診断をおこないます。その診断の結果でもって、詰所の統廃合の課題が避けてはとおれない状況になります。また、平成23年10月1日から無線が統一になりますので、当然ブロックを越えての出動ということが可能になってきます。ただ、地理的に不慣れだとかの壁がありますが、通信の手段は確保できます。そういったことも含めて、長期的な目でみていかねばいけないと思っています。

丸山委員長：水防の関係、防災無線、詰所の問題があるわけで、ただ一点だけに絞るのではなく全体をみながら検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(2) 年末警戒巡視激励について(危機管理室 西牧説明)

(3) 平成23年出初式について(危機管理室 下里説明)

(4) その他

次回消防委員会の予定について

係長：次回の委員会の時にはどこの分団にこの車というお示しをして良いでしょうか？

小林委員：団員の考え方と消防委員の意見がくい違うのはいかがか。意見がお互い平行していかなくていいか？

小出委員 : 団員がどう考えているかということもあるが、ベースがどうあるべきということがあって初めて団員がそれをどう考えるかだと思う。今検討しているのは、そのベースの部分はどう踏み込んでいくかの検討をしているわけで、その話を分団に下ろして、こういう方向でやるのでどうだということ、市としてどうするのかということが大事だと思う。

丸山胖委員 : ある程度事務局のほうで、たたき台でこれでいこうではないかと作ってもらえれば。

丸山委員長 : 全体的なバランスでいかないと。

小出委員 : 消防団・団員としては与えられた装備で動かざるを得ないので、その基本のベース作りをしていかなければいけないわけです。

丸山委員長 : ここは諮問機関なので、決定機関ではないので消防委員会のなかで各消防委員さんの意見を持ち寄っていただいて、その意見を行政がとってくれるか判断してくれば良いと思います。

室 長 : 市の考え方をお話させていただきましたが、将来的には消防車両をどうしていったらいいか。消防団はどのようにあるべきかを、委員会で話し合いながら一定の方向を諮問していただくことが行政からのお願いであるわけですので、まずは、こういった要因があるから将来的にはここはこういう装備が必要だということを全体のなかで考えていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

3 閉 会